

「秋田大学学生海外派遣支援事業」報告書

記入日：2012年5月27日

所属： 教育文化学部 学校教育課程 教科教育実践選修 4年

氏名： 中山 慶美

派遣先大学名： セント・クラウド州立大学（アメリカ）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2011年8月～2012年5月

渡航年月日：2011年8月13日

帰国年月日：2012年5月7日

派遣先大学における授業等の履修状況

履修した講義名	履修期間	履修時間(週)	修得単位数
Introduction to Testing for Language Teachers	Fall 2011	2	3
Listening and Speaking	Fall 2011	2	4
Admin Orié Intl Student	Fall 2011	1	1
Reading and Writing II	Fall 2011	2	4
TESL Methods: Reading/Writing	Spring 2012	1	3
ESL and Culture	Spring 2012	2	3
American English	Spring 2012	2	3
Introduction to Phonology	Spring 2012	2	3

私は、留学するまで一度も海外に行ったことがありませんでした。そんな私にとって、まずとても驚かされたのは、アメリカの人種多様性の幅広さということです。アメリカでは様々な国から来た人々が共存していました。私の聞いたことのない国から来ている留学生もいました。いろいろな国の人との関わりを持ち、話をすることで、自分の世界に関する情報や知識の乏しさに気づきました。常日頃から、もっと世界のことを気にしながら生活することが、いろいろな国々の人々を知ることにつながるのだなど実感しました。

私は留学中、大学の授業や生活する中で、たくさんの方々に助けられました。授業面では、同じ授業を取っていたクラスメイトに助けられたり、以前その授業を取ったことのある人に頼んで勉強面をサポートしてもらったりしていました。先生もとても親切で、分か



らないことがあれば、授業後やオフィスアワーに聞きに行きに来て教えていただきました。生活面では、インターナショナルフレンドシッププログラムを活用し、大学の近くの町に住むご家族を紹介してもらいました。一か月に何回か週末にご自宅を訪ね、お互いの文化を共有することができました。クリスマスとニューイヤーも、家族の団らんに招いていただき、とても貴重な体験をさせていただいたことに感謝しています。

私が、アメリカに来て強く感じたことは、授業中の学生の発言がとても活発だということです。先生の授業の進行などお構いなしに、質問が次々と飛び交っていました。最初は、他の学生に圧倒されてしまって、まったく発言する勇気がありませんでしたが、だんだんと慣れていくうちに私もその雰囲気になれることができました。今までに書いたことのないような量のエッセイ、読んだことのないような量のリーディングに最初はどうなることやらとハラハラしたこともありましたが、ライティングセンターの方に助けてもらったり、テスト前にはクラスメイトと勉強会を開いたりして、なんとか乗り切ることができました。

2セメスター目は、授業や生活にも少し余裕が出てきて、リサーチペーパーを書いて、リサーチコロキウムで発表してみようと考えました。ペーパーの書き方についてはライティングセンターの人に指導していただきながら、発表のためのペーパーを書き上げることができました。さらに、自分のリサーチが推薦されて他のカンファレンスで発表することが決まり、不安な思いもあったのですが交換留学生にも関わらず推薦していただいたことに感謝して死ぬ気でがんばりました。アドバイザーになっていた先生にもたくさんアドバイスをもらって、最後まで書き上げることができました。



日本では学ばなかった専門的な知識も学びました。音韻論の授業は複雑なデータをパソコン上で操作して分析するなど、まるで自分が科学者になったかのように感じてとても魅力的な授業でした。決して楽だったとは言えない授業もありましたが、その分、あとに残ったものが凄く大きかったと思います。勉強面でも生活面でも非常に充実した1年間を過ごすことができました。



最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただき、さらに旅費の補助をしていただいた秋田大学、そして留学実現に尽力してくださった皆さん、本当にありがとうございました。